

B-4 Panty-stockingの変形とづれについて

日本女大家政 大野静枝 倉崎順子 青木千賀子 増子富美

目的 Panty-stocking (以下P・S) は婦人の装身具の1つとして定着しつつある。これらのP・Sの多くは、ラン防止、フィット性の向上などを目的として糸の性質、編目構造、加工などによって改良されたものがみられる。P・Sに対する着用上の問題点は種々あげられるが、本研究ではとくに着用時どの位変形しまたづれるものであるかについて着用実験を行ない考察を試みたので報告する。

方法 試料は市販のP・S4種 (A社製フリーサイズ、ノーラン; G社製フリーサイズ; N社製プレーン) を求め、被験者4名に1日約8時間着用させた。はじめに、P・Sは平面上で脚部に等間隔を印し、着用前の周長を原長として、着用時の同印の各部位の周長、間隔を測定し、部位別の変形率を求めた。また脱衣後、1晩放置後、洗たく後の残留変形率を求めた。さらに同様な着用状況を3回くりかえしたものについても考察し、前者と比較検討した。なお、よこ方向づれについては既報で述べているので省略した。

結果 結果の一例を図(a), (b)に示す。図は、ある被験者の第1回目着用の場合である。(a)は着用直後、4時間後の変形率、(b)は残留変形率である。

